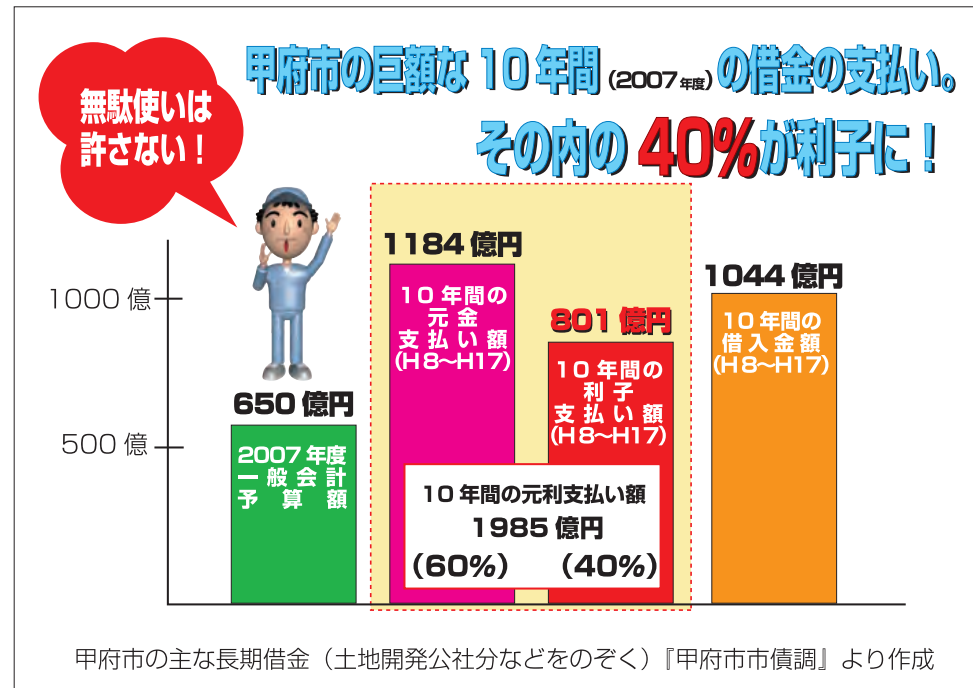


※より詳しいムダ削減の政策は山田厚のホームページをご覧ください → 「山田 厚」と検索してください

# 自治体財政の本当のムダとは、ここにあります！

## 「まちづくり」とはならない、民間建物への巨額な公費支出



「まちづくり」として民間所有の大きな建設物に巨額な公費が国の指導でつぎ込まれています。例えばココリの建設費109億円には50億円以上もの国・県・市の公費がつぎこまれました。

しかもその公費の経済的効果はどうなのかです。ココリも不調ですが、グランパークの場合がより問題です。23億円もの公費（甲府市はそのうちの6億円）が投入されましたが、建設から10年ほどで競売となり、今では建物も解体されてありません。つまり23億円の公費が『無』になったのです。

問題なのは、公費負担がこれほど多いにもかかわらず、民間所有ということで自治体議会でのチェック・解明・責任追及が極めて難しいことです。わたし自身もようやくこの事態を把握したばかりです。

今後、リニア関係の民間大規模施設に、より巨額な公費（巨額な地方債）がつぎ込まれることが想定されますが、私もしっかり身構えて、ムダな支出のストップに力を注ぎます。

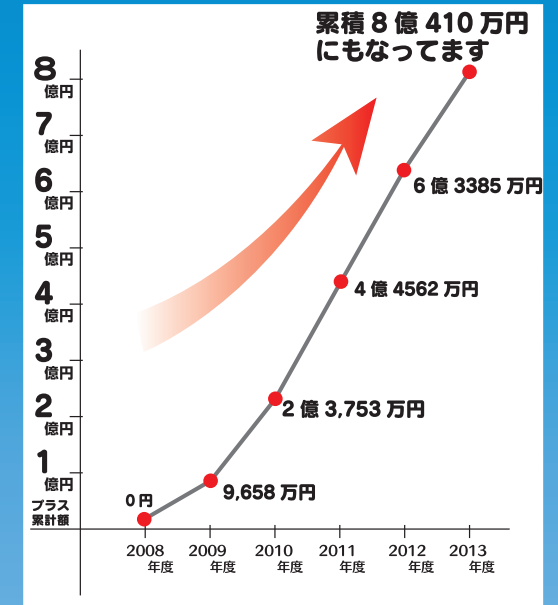


「住宅リフォーム助成」が議会の強い要望ではじまりました。2年間で、計3500万円で400件をこえる実績です。今後、改善と継続を求めますが、小さいリフォームにこそ高い経済効果があります。

一般家庭の下水道料金の値上抑制の効果あり

地下水利用だけの企業、その大口排水の下水道料金を標準・公平にして収入増に！

— 大口井戸水等排水料金 2009年度改定にともなう累積収入額 —



高い金利の支払いこそムダです！

大きな公共事業を行う財源は、ほとんど長期借金（地方債）で行われますが、金利が高いために巨額なムダが長期的に発生します。1996年度～2005年度の10年間の元利払いは利子だけで40%になり、801億円（当時の市の年間予算は650億円）にもなりました。

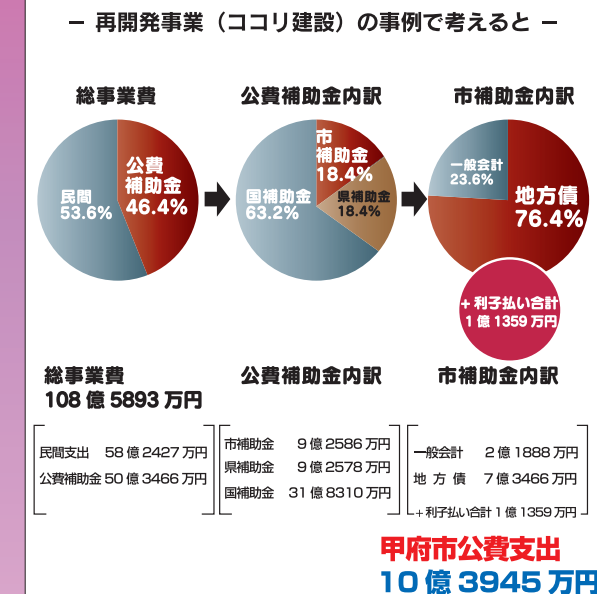
私はこのことを問題にして、長期借金の抑制と金利の低下（繰り上げ返済・金利の競争入札）をはかることを主張してきました。その結果、一定の改善ははかれましたが、まだ2013年度の利子払いで26億円（元利払いの18%）も負担しています。



2010年10月22日  
ココリのオープニング

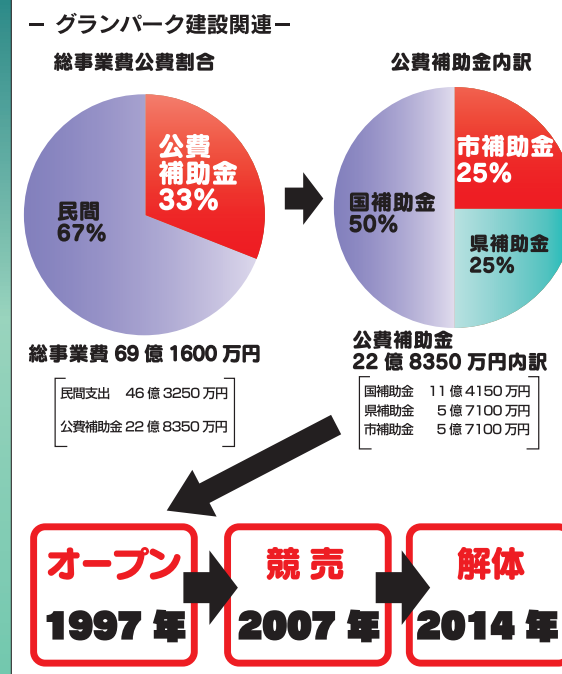
合計して甲府市では10億3945万円の財政負担となったのです

リニア関連の公費支出は巨額になる可能性が！



甲府市市街地再開発事業 甲府紅梅地区（ココリ）2006年度～2013年度  
甲府市財政課資料より作成  
2014年9月

グランパークは16年間で解体！  
公費支出23億円が「無」に



甲府市市街地再開発事業（甲府国母地区1995年度～1997年度）  
甲府市財政課資料より作成  
2014年10月

大きな企業への  
応分の負担の遅れ

行政には「やってきたことをそのまま続ける」という体質や、また「応分の負担」を大きな企業にはなかなか求めない体質があります。その例は、「大口井戸水等排水料金」です。大きな企業が地下水を利用しその排水を下水道に流す場合の下水道料金です。この料金が長年減額されたままでした。

私は、この大口料金を公平な通常料金にすることを求めました。その結果、毎年2億円ほどの増収となり、市民にとっての下水道料の値上げ抑制につながっています。



グランパーク  
2014年1月、旗艦店であったトイザらスも撤退、3月には全店舗が撤退し、閉鎖された。